

# 国宝土偶を粘土で

尖石縄文  
考古館

## 実物大「仮面の女神」再現

茅野市の尖石縄文考古館は24、25日、市内で出土した国宝土偶「仮面の女神」の実物大を粘土で作る講座を同館で開いた。県内外から10人が参加。縄文時代に思いをはせながら、国宝土偶の造形の素晴らしさや制作する難しさを体



粘土を使って国宝土偶「仮面の女神」  
を実物大に再現する参加者ら＝25日

感した。

国宝土偶を実物大で制作する講座は珍しいといい、毎年人気で今年も定員の倍ほどの応募があり、抽選を行った。参加者は2日間かけて制作し、24日は胴体を中心に、25日は顔や文様に取り掛かった。

材料は砂を混ぜた粘土。有志でつくる同館土器サークルのメンバーに教わりながら、本物をかたどった石ころ模型を見本に作業を進めた。本物の高さは34センチで、土偶の曲線から文様までを再現。参加者は「作ってみないと気付けない形もあるね」などと話しながら、竹串を使って集中して細かい形までこだわって作っていた。

千葉県から訪れた公務員の女性(46)は「縄文時代に興味があり、土偶や土器作りを試してみたかった。作るのに必死

だけと楽しい。どんな思いや願いを込めてこんな形や文様にしたのか、より興味が深まった」と話していた。

完成品は同館で保管して乾燥させ、10月に再び参加者を集めて野焼きするという。

(中村理沙)